

RSS／コンポジットコード 最新情報！！

医療現場でのトレーサビリティの実現と医療・投薬のミスを防止するために、医療用医薬品に「RSSコード」、「RSS／合成シンボル(コンポジットコード)」による表示の実施が進められています。今回はRSS／合成シンボルの最新情報をご紹介します。

RSSコードをめぐる概況

今年9月、厚生労働省から日薬連(日本製薬団体連合会)などに対して医療用医薬品へバーコード表示を行うための実施要領が通知されました。この通達は、これまでもご紹介してきたとおり、医療用医薬品の取り違えによる医療事故を防止するために医薬品のトレーサビリティを実現することを目的としています。さらに、その背景には政府が政策の重要テーマとして医療分野のIT化を推進しようとしていることもあり、医療用医薬品へのバーコード表示は、2008年9月の標準化実施にむけて順調に進んでいるという状況にあります。

日薬連では厚生労働省からの通知を受け、9月に加盟団体に対して医療用医薬品に新しいコードを表示するためのガイドライン策定を通知しました。その後、質疑など

を経て、11月に詳細版ともいえる「医療用医薬品新コード表示ガイドライン」が通知され、加盟する製薬メーカーでは製造する医薬品に対してRSS／RSS合成シンボルもしくはGS1-128(従来のUCC／EAN-128)を使って、国・メーカー・商品といった流通に必要な情報の他に、有効期限やロットなどの内容を表示することが決定しています。

標準化によるメリットとは

この医療用医薬品のバーコード標準化は、これまで100錠入り、30錠入りといった販売される単位まででとどまっていた管理単位を細分化し、調剤単位——注射剤はアンプル・バイアルの1本単位、10錠前後の単位でシート化されている錠剤やカプセルのような場合には、そのシート単位



これまで販売する小箱単位(左)までだった医療用医薬品の管理も、シート単位(右)まで細分化されて管理されるようになる。(写真はイメージ画像)

——まで管理できるようにするというものです。この管理単位の細分化によって、製薬メーカーから流通業者を経て各病院・薬局で実際に患者に投薬・販売されるまでのトレーサビリティが可能になります。すでに各製薬メーカーでは、原材料から製造工程～出荷までの情報管理が行われているので、流通管理が行われることによって、医薬品は原材料から患者への投薬まで追跡が可能になるのです。

今回の流通コードの標準化は、メーカーにとっては流通在庫を把握が可能になる——必要以上の生産を防ぐことができるといったメリットがあります。このメリットは原材料を納入する業者、メーカーと病院・薬局を繋ぐ流通業者にも及ぶことは言うまでもありません。

他方、医療の現場では医薬品に表示されているバーコードを利用して投薬のミス防止に役立てることができ、患者は安心して治療を受けられるという、三者三様にメリットを享受できるようになるのです。

政府が重要視した医療ミスの防止と医療のIT化という2つの課題が、今回の標準化によって解決のスタートを切ったといえるでしょう。

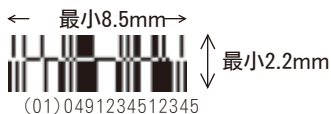
●RSSコード

●RSSリミテッド(RSS Limited)



標準のRSS-14スタンダード(Min16.3×5.6mm)の構成を一部変更して、高さ1.7ミリの省スペース化したバーコード。

●RSS-14スタック(RSS-14 Stacked)



RSSリミテッドをさらに省スペース化するために、RSSリミテッドを2段に分けて重ね、極小化したバーコード。

●RSSコンポジットコード ●RSSリミテッド合成シンボルCC-A



RSSリミテッドにマイクロPDFを積み重ねたコード。マイクロPDFには数字56桁分の情報を入れることができる。

なぜRSS/RSS合成シンボルか？

これまで医療機器は「UCC/EAN-128」というコード体系で管理されてきました。

このなかにはメーカー、商品といった流通情報から有効期限・ロット番号などの情報まで入っています。今回、医療用医薬品に適用される内容表示で求められている管理項目と大きな差はありません。

ではなぜRSS/RSS合成シンボルという新しいコードが必要なのでしょう。ポイントは「管理の細分化」にあります。

これまでの管理単位は「販売単位」だったことはすでにお話ししました。ところが今回、管理単位が細分化されることで、従来はバーコードなど印字していなかったところにも同じ内容の情報をバーコード化

して印字する必要が出てきたのです。

「調剤単位」で管理するためにバーコードに与えられるスペースは限られています。従来のUCC/EAN-128のようにスペースを必要とするコードでは印字ができないため、省スペースで印字が可能な「RSS/RSS合成シンボル」が採用されたのです。

RSSコードとGTIN

これまで流通のように商品情報を管理するシステムでは国際的に標準化された「JAN」と「ITF」の2種類のコードが使われてきました(ITFは集合包装商品コード)。この規格が2010年3月までにすべて「GTIN(Global Trade Item Number)」という新しい体系下で管理され

ることになっています。医療用医薬品の管理に使われる「RSSリミテッド」や「GS1-128」はGTINに準拠した形で作られており、製薬メーカーの商品については、GTINへの移行が完了する2010年を待たずに、いち早く新しい管理体系下で商品コードなどが管理されることになります。

(次号ではRSS/RSS合成シンボルの印字をめぐる課題と解決方法についてご紹介します)

● 展示会情報 (ご招待券を用意しています。お申し付け下さい)

第24回 エレクトロテスト・ジャパン

【展示会の概要】

エレクトロニクス実装、半導体、基板製造に関する検査・試験・測定・分析機器が一堂に集まる専門技術展『第24回エレクトロテスト・ジャパン』が、1月17日～19日の3日間、東京・有明の東京ビックサイトに開催されます。

同時開催展を含めると、エレクトロニクス業界の展示会としてはアジア最大。今年は出展者も1000社を超え、注目されています。

【東研ブースの見どころ】

当社の誇るX線顕微検査装置のラインナップを数多く出展。特に大型の実装基板の検査に対応し、CT機能も搭載できる新製品『TUX-3110』はこの展示会で初公開となります。

会 期 2007年1月17日(水)～19日(金)

場 所 東京ビックサイト<東展示棟>

ブース番号 東ホール 4-22



新製品 TUX-3110

編集部より

新年あけましておめでとうございます。

昨年は本号の特集の医療用医薬品へのバーコード表示が決まるなど、新たなニーズが広がりを見せ始めた1年でした。バーコード・2次元コードの印字もダイレクトマーキングが広く採用されるようになり、これからも一層、バーコード/2次元コードの有用性は増していくように感じています。今年もタイムリーな話題や新技術の情報などをご紹介しますので、2007年も東研ならびに本紙 **Flags** をよろしくお願い申し上げます。

次号予告

2月号は...
『RSS/RSS合成シンボル
印字をめぐる課題』です。

Flags 2月号は2月5日発行です。

TOHKEN

株式会社 東 研

<http://www.tohken.co.jp>

本社 営業部

東京都新宿区西新宿2-7-1 新宿第一生命ビル

Tel 03 (5325) 4311～3 Fax 03 (5325) 4318

名古屋営業所

Tel 052 (565) 9091 Fax 052 (565) 9094

大阪営業所

Tel 06 (6353) 5476 Fax 06 (6353) 6125

福岡営業所

Tel 092 (441) 3638 Fax 092 (441) 3639

日立営業所

Tel 029 (276) 9555 Fax 029 (276) 9556

Flags/フラッグス 2007年1月号 Vol.21 2007年1月9日発行

編集・発行 株式会社 東 研 〒163-0710 東京都新宿区西新宿2-7-1 新宿第一生命ビル
Tel 03 (5325) 4322 (編集事務局)

本誌に掲載の記事・写真・図版などは著作権法によって保護されており、無断で転用・転載・複製することはできません。